

なんかい

NANKAI

vol. 112

2018.11

南海寮 広報委員会

熊本県天草市本町下河内1685番地の1

TEL 0969-23-3850

FAX 0969-22-4977

Mail keiyukai@cup.ocn.ne.jp

URL <http://www.nankaiyou.or.jp/>



利用者旅行（箱崎八幡神社＝鹿児島）

家族・職員合同研修

心と体を元気にする リハビリ介護講座

当施設では、正規職員として理学療法士の配置はしておりませんが、5年程前より理学療法士の堀川氏にリハビリに関する職員への技術指導を目的として定期的な訪問指導・アドバイスをいただいております。今回はその堀川氏に家族との合同研修会で実技を交えた発表と講義をしていただきました。

堀川氏に指導をいただく以前の私たちのリハビリは「利用者さんの健康、体力維持のため」という思いから「もっと頑張る」という思いから「もっと頑張る」と目標やノルマを課し、それができないと「なぜもっと頑張ってもらえないのか？声掛けがいけなかったかな？」「毎日、頑張ってるリハビリしているのに調子が悪くなった、かえって動けなくなったりするのはなぜだろう」と悩んでいました。しかし、堀川氏の「いやなことはしてもらわなくていい。意味のないノルマを与えられるとそれはしごきにしかならないし、リハビリが嫌になる。リハビリする方もされる方も楽しくないとね。」という考え方に最初は戸惑ったものの、堀川氏と接していくうちに少しずつ

大切なものに気づかされていくようになりました。毎回堀川氏はリハビリ前に「今日もよろしくお願ひします。私は堀川といいます。よろしくお願ひします。」ときちんとあいさつをされます。当たり前のことかもしれないませんが…。文章での表現が難しいのですが、堀川さんのあいさつは何か暖かい空気が言葉の中に含まれているのです。リハビリの間、優しい言葉しか使われず利用者さんが嫌がられても笑顔で「嫌ならよかよか。また次回お願ひします。ありがとうございます。」リハビリが上手くいくと本当にうれしそうな笑顔で「ありがとうございます。」と常に感謝の言葉を使われます。つい、職員が「〇〇さんはそれはできないんです。」と否定的なことを言うと「ああ、そうですね。なら、できることを考えましょうね。」と常にプラス思考で進めて下さいます。

今回の研修会ではいつも堀川氏がおられるのか、また私たちが対利用者さんとの接し方だけでなく、あらゆる出来事、人に対して感謝を忘れずに接していくことが大切である事等を再認識した素晴らしい研修会であったと思います。

研修報告 全国グループホーム等研修会

グループホームにおける

意思決定支援

支援員 小川 明奈

全国グループホーム等研修会が愛媛県であり、参加させていただきました。

大会1日目は厚生労働省障害福祉課より「改正総合支援法と平成30年度報酬改定」の行政説明があり、また基調講演として毎日新聞社の野澤和弘氏の「暮らしの中の意思決定支援と権利擁護」の話がありました。講演の中で「その人を理解するためには、その人が何を想い、何を感じているのかを理解しなければならぬ」とありました。適切な支援を行うためにはその人の事をよく知らなければなりません。利用者の方と接する中で、様々なタイプの方がいらっしゃいます。考え方、感じ方は十人十色で、時々トラブルになる事もあります。また自分の思いもなかなか伝える事が難しい方もいらっしゃいます。私達支援者は表情や仕草からその方の意思をくみ取ることが大切です。この言葉を心に置き支援を行いたい

大会2日目は5つの分科会が設けてあり、私は第1分科会の「重度化・高齢化への対応、共同生活援助事業の活用方法を考察する」に参加しました。3つの施設の方々がそれぞれの実体験をもとに話されました。どの事例においても地域で生活する障がい者の重度化・高齢化が見られてきています。人はいつか最後の時を迎えます。これからは、一人ひとりの高齢期（人生の結びの時期）を生きがいと役割を持ち続け生活を送れることが大切であり、お互いが迎えるであろう終末期で「良い人生だった」と言ってもらえる（言える）ようこれからも本人に寄り添った支援をしていきたいと思えます。グループホームでの最近の新たな取り組みとして、週末に調理実習を取り入れました。皆さんが食べたいもの、作りたものをメニューに選び、買い物、調理を一緒に行っています。回数を重ねるたびに「楽しかったよ!」「上手に作れたよ」などと喜びの声があがっています。利用者の方の願いや想いに応えるために私たちができる事は何でもチャレンジしていき、本人に寄り添った意思決定支援を行う事が大切だと感じています。

研修報告 アンガーマネジメント研修

怒りを相手に上手く伝える

支援員 田中 雄三

アンガーマネジメントとは、1970年代にアメリカで始まった、アンガー（怒りの感情）をマネジメントするための心理教育のことで、職場だけではなく、よりよい生活や仕事、人間関係を築くために学習するプログラムとしてアンガーマネジメントが活用されています。

日本でも多くのマスコミに取り上げられており、アンガーマネジメントの導入により、離職者を少なくすることに成功した福祉施設の事例や民間企業での様々な取り組みなどが報告されています。社会福祉に携わる仕事は、感情労働とも言われるように、私たち社会福祉従事者が自分自身の感情をコントロールし、状況に応じた言葉や態度が求められています。が、目標どおりの支援ができない時や、職場内でトラブルが生じた際など、心理的な負担を抱えたりすることも少なくありません。そのような時、利用者や職場に対して「怒り」の感情を抱いてしまい、

その状態が長期に及ぶと、サービスの質の低下や、職場内のモチベーションの低下、さらには離職につながる恐れがあります。インターネットの調査によると、怒られた部下が上司に対して「パワハラだと感じる」のは53・8%、一方怒った側が「パワハラだと感じている」のはわずか16・7%、また、怒られた部下の多くは、その後の業務に支障をきたすと回答しており、怒られた部下の5人に1人が1年以上引きずっていると回答しています。

下手な叱り方（怒り）からは、悪い怒りの連鎖につながり、周りにも悪影響を与えること。怒りの性質は、高い所から低い所へ流れる、伝染しやすい、身近な対象ほど強くなるなど、怒りの感情が業務に及ぼす影響は良いものではありません。私も怒ったり、叱ったりすることがありますが、今回の研修で学んだ、自分自身の怒りの感情と上手に付き合う方法を振り返りながら実践し、良好な関係、快適な職場環境を築き、サービスの質の向上に繋げていきたいと思いました。

夕涼み会



仮装パーティー（ハロウィン）



旅行（天草崎津方面&水俣・鹿児島訪問）



グループホームたんぽぽ&みなみ 新設・建替え2周年記念 合同ボウリング大会&食事会

この度グループホームたんぽぽの新設とみなみの建替えが2周年を迎えるにあたり10月6日、たんぽぽとみなみの入居者や世話人、担当職員、バックアップ支援員等の合同で記念のボウリング大会と食事会を開催しました。当日は台風25号の影響が心配されましたが、特に被害もなく予定通り行われました。

午前中のボウリング大会では、グループホームみなみの最年長、畑中さんの「みんながんばろう」の掛け声でゲームがスタートし、最初は恐る恐るボールを投げていた利用者さんも、徐々に調子が出てくるとス

トライクやスベアを出され、大きな声を出して体全部で喜びを表現する人もいれば、恥ずかしそうな笑顔で応援者とハイタッチする人などそれぞれに楽しまれている様子でした。

応援参加した職員も、利用者さんを応援しながらも自分の番になると普段の冷静な姿はさておき、ボール一投一投に本気で一喜一憂する姿がみられ、利用者さん以上に楽しまれている方も（笑）おられました。

午前のボウリング大会終了後は、会場を移し食事会が行われました。乾杯の挨拶はグループホームみなみの山下さんの発声で和やかに始まりました。午前中の運動の後ちようどお腹も空いた頃で、沢山の御馳走を皆さん思いに楽しまれていました。

お腹がいっぱいになった後は、利用者さん

によるカラオケ大会の始まりです。一番手は演歌が好きな森田さん。「大阪しぐれ」で得意の喉を聞かせてくれました。他の利用者さんも得意の歌を歌われ、その中でもダンス好きの植尾さんは振り付きの歌の披露で拍手喝采の盛り上がりでした。このようにして食事会の方も盛会に終わることができました。

グループホームたんぽぽは7月、グループホームみなみは12月で丸2周年を迎えます。

宴会の席では世話人さんや職員の間で、今までの苦労話等が交わされていました。開設当初は引越しから始まり、荷物の片づけ、それぞれのホームでのルール決め、新しい入居者の対応、利用者さんとの信頼関係づくりなど、皆さんの暮らしが落ち着くまでは試行錯誤しながらの毎日が続き、とにかく大変だったと話されていました。それでも今では、利用者さんは世話人さんを慕い、ホームを我が家のように思い、落ち着いた毎日を過ごされている様子です。利用者さんの地域での暮らしを実現するグループホームですが、地域の皆様の支えがあって成り立っています。今後とも、地域の皆様のご協力を得ながら、私たち南海寮も一緒にサポートしていきたいと思っています。

松下加津美





通所センターだより

猛暑もいつの間にか過ぎ去り、食欲の秋となりました。9月中旬に植え付けた芋3種類（紅はるか・安納黄金・シルクスイート）がやっと収穫時期を迎え芋掘りを行ったのですが、土が例年よりも固く苦勞しました。ツルの根元を引っ張ると、切れて尻もちをついたり、鍬で周囲をほぐしてからと思っても相当力が必要で、力ませにしたら芋が真っ二つ！何てことになってしまい、とうとうスコップや曲り鎌で芋を傷つけないように丁寧に丁寧に掘る事になりました。まるで化石発掘状態です。芋掘りってこんなじゃないですよ普通（汗）時間が掛かる作業を、「

まだ取れん」などと言いながらも皆さん頑張って下さいました。収穫量は昨年の半分にも満たない状況で、農作物を育てるのは本当に難しいですね。

収穫後は皆さんで「第？回も会議」を行い、食べ方ランキングでは、1位「ガネ揚げ」、2位「焼き芋」、3位「スイーツポテト」でした。そう言えば、ちょうど1年前のセンター便りが「ガネ揚げタワー」だった事を思い出しました。収穫した芋でつくったガネ揚げを利用者さんと一緒に1日限定で販売できたらいいなあ〜という構想もあります。いつになるかわかりませんが、その時はお知らせしますのでぜひお越しください。

ある利用者さんが「芋は秋。秋が来たら寒くなる。もう冬になる。」と話されていましたが、1年って本当に早いな〜と感じるこの頃です。

京塚香菜



地域における小さな取り組み紹介

今年6月に地元の民生委員・児童委員の皆さんとの意見交換会を実施した際に、高齢・過疎化が顕著な地域（本町）における様々な福祉的課題がある中で、私たちがお手伝いできる事がないかをお尋ね・協議したところ、定期的に公民館で開催されている高齢者の憩いの場「サロン」に参加したいが、足腰が弱く、自宅からの移動手段もないため参加が難しい方がおられるとの情報をいただきました。その後、サロンを主催されている地区の担当者に相談を行い、7月より毎週木曜日のサロンの日に、当該参加者4名の自宅から公民館までの送迎を無償で実施しています。

送迎を始めて3か月になりますが、サロンに参加されている地域の方々とは顔なじみとなり、先日開催した夕涼み会にも数名ご参加をいただきました。地域においてコミュニティの減少や、住民の繋がりが希薄になってきている昨今、小さな力かもしれませんが、地域の課題解決に少しでも寄与できればと思っています。 支援課長 倉田美晴

編集後記

10月に実施したご家族面談会（面会日）にて、家族と職員の合同研修会を実施し、その中で健康保健委員会よりリハビリの取り組みについてご紹介させて頂きました。当事業所でも利用者の方の高齢化が深刻な課題であり、今号1面でご紹介させて頂いた堀川氏の御指導の下、委員のみならず全職員で残存機能の維持に努めています。

また、先月の誕生会では初めてハロウィン仮装を開催し「楽しかった」「また来年もお願いします」と多くの利用者から好評でした。これは主に若手女性職員で構成された学習レクリエーション委員会による発案であり、今号のなんかいフォトアルバム欄にて掲載させて頂いております。今後も利用者の日中および余暇活動の更なる充実化に向け随時イベントを開催していきたいと思っております。

池田恭輔

職員研修会等参加報告

- 福祉職員キャリアパス初任者研修(8月) 柴田
- 尚綱子育て研究センター公開シンポジウム(8月) 井上
- スーパーバイザー養成研修(9月) 高瀬
- 中堅社員リーダーシップセミナー(9月) 坂本
- 企業の魅力発信セミナー(9月) 松浦光
- キャリアパス研修管理職員コース(9月) 松浦徳
- 熊本学園大学社会福祉研修会(9月) 松下加
- リスクマネジメント研修(10月) 坂本

今後の予定

11月5～16日 天草支援学校現場実習

11月6～8日 大阪2泊3日旅行(USJ他)

11月23日 本町ふるさとまつり

12月13日 餅つき・忘年会

1月 どんどや